

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者の評価結果について（平成28年度期末）

1 取組実績の評価（1）：事業の実施状況の評価

評価項目

(1) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）

- (1-1) 「 地域課題への取組」にかかる支援の実施状況
- (1-2) 「 つながりの拡充」にかかる支援の実施状況
- (1-3) 「 組織運営」にかかる支援の実施状況
- (1-4) 「 区独自取組」にかかる支援の実施状況

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主財源確保の取組について、自発的に計画・実行する地域が出てくるなど、粘り強く丁寧な支援の効果が現れている。 ・「いきいき百歳体操」や「地域食堂」などの新たな取組により、定期的に住民が集える有益な地域コミュニティの拠点ができ、住民への情報提供や相談に応じることなどが可能になったほか、新たな担い手の発掘にもつながった。 ・補助金の精算事務について、新たに「随時チェック」という支援を始めたことで、地域の会計担当者の負担軽減が図れた。

2 取組実績の評価（2）：事業の実施体制等の評価

評価項目

(1) 自由提案による地域支援の実施状況

- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等
- (3) 区のマネジメントに対応した取組

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主財源の確保について、地域差はあるものの自発的に情報収集から申請の手続き等、積極的に取り組む地域が出てきたことから、有効な支援が行えていた。 ・他区の支援員やアドバイザー等と定期的に情報共有し、それを地域の支援に活かすことで、効果的な助言・指導が行えていた。 ・フォロー体制について、必要に応じてローテーションを組みかえるなど、柔軟な対応が出来ていた。 ・区の方針に沿った考え方で、地域のニーズに合わせた支援が行えていた。

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）に関する評価

評価	左記の理由
	<ul style="list-style-type: none"> ・プロボノなど外部の専門的な協力を軸に、新たなツールや各種

A	<p>助成金を活用する地域がでてきたことから、支援策が有効であったと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の連携はもとより区内の地域間連携を意識した活動が見られるようになっており、支援の効果が現れていた。 ・適切に助言・指導を重ねたことで、各事業にかかる経費を精査し、地活協全体の事業バランスを検証したうえで、見直し等も含め新規事業を検討する地域が出てきており、支援の効果が現れていた。 ・「地域フォーラム」を開催し、組織運営の基本等について改めて認識したことで、地域差はあるものの、事業実施までの流れや一括補助金のあり方等についての理解度が深まったことから、有効な支援が行えていた。 ・「いきいき百歳体操」について、区役所担当課等と連携しながら地域への実施支援を行ったことで、地域コミュニティの拠点づくりにつながった。また、次年度以降、地活協での事業化も見据えて実施し始める地域が出ており、支援の成果が現れている。
---	---

4 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）：目標等の達成状況の評価

評価項目

- (1) アンケート調査
- (2) 自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）
 - (2-1) 「地域課題への取組」の達成状況
 - (2-2) 「つながりの拡充」の達成状況
 - (2-3) 「組織運営」の達成状況
 - (2-4) 「区独自取組」の達成状況
- (3) その他の効果のあった内容

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が自律的に運営されていると感じている割合は、「そう思う」「ややそう思う」合わせて88.9%あり、課題やニーズに応じて中間支援組織から支援を受けていると感じている割合も、「そう思う」「ややそう思う」合わせて88.3%と、ともに目標以上の成果をあげている。 ・担い手の拡大や財源の確保など全地域共通の課題及び個別の地域課題について適確な支援を行うことで、地域のニーズに対応した活動が進んでいる。 ・運営委員会の開催支援のほか、補助金に係る説明会の開催、広報研修など、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性の確保に向けた支援を行うことにより、議決機関の運営や会計事務の執行、広報活動が基本的な理解のもとでなされている。

5 総合評価

上記の評価を踏まえ、総合的に評価

(1) 総合評価

項目	評価	左記の理由
(1) 地域課題等の把握・分析・整理	A	・区内全地域における共通の課題はもとより、支援員が地域に積極的に入り込むことにより、それぞれの実情に即した課題を把握し、地域と共に共有しながら分析・整理するなど、効果的な支援ができていた。
(2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	A	・各地域の不得意分野を補うべく、区内の地域活動協議会間の連携を強めることで、地域自らが模範とすべき他地域の事例を取り込みながら、それぞれの地域課題解決に反映できるよう効果的な支援ができていた。
(3) 区のマネジメントに合った取組	A	・地域活動協議会の本来の趣旨である「地域自らが課題の解決に取り組む」という事例として、本市の都市景観指定を受けている磯路地域の「桜通り」の維持管理にかかる課題解決のため開催されている「桜まつり」について、他の地域活動協議会や各種団体に賛同・協力を求めることを提案するなど、地域が自発的に計画・実行するための的確な支援を行った。

(2) 総合評価

項目	評価	左記の理由
総合評価(全体)	A	<p>・地域の自律運営に向けた的確な助言・指導ができており、各種研修や情報交換の場の提供や個別の活動支援を行うなど、常に地域に寄り添いながら支援を行うことで、地域からの厚い信頼を得ている。</p> <p>・地域運営にかかる共通課題である「自主財源の確保」について、行政の委託事業を受託するためのサポートや各種イベントへの模擬店出店など、様々な手法を提案し、その実現に向けた的確な支援ができていた。また、「人材不足の解消」についても、地域と共に検討することで、多くの事業において担い手の拡充を図るなど、自発的に取り組める体制確保に向けた効果的な支援ができていた。</p>

(評価基準)

S：本市の求める水準を大幅に上回る効果が得られた

A：本市の求める水準以上の効果が得られた

B：おおむね本市の求める水準どおりの効果が得られた

C：本市の求める水準の効果が得られていない